●日本産魚類の差別的標準和名の改名最終勧告（2007年1月31日，日本魚類学会評議員会により承認； もとの和名は原則として中坊編（2000）による；そうでない場合は，説明を加えた；改名済み1種を含む）（2007年2月8日部分訂正）

綱	目・亜目	科・亜科	属	種	新和名の説明・他
Myxini　メクラウナギ綱 →ヌタウナギ綱	Myxiniformes　メクラウナギ目 →ヌタウナギ目	Myxinidae　メクラウナギ科 →ヌタウナギ科	*Myxine*　メクラウナギ属 →ホソヌタウナギ属	*M. garmani*　メクラウナギ　→ホソヌタウナギ	綱から科までの名称は既存名を適用．属・種の名称は*Eptatretus*ヌタウナギ属よりも体が細いことによる．なお，中坊編（2000）では本科魚類に別属としてParamyxineクロメクラウナギ属が含まれているが，Fernholm（1998）により*Eptatretus*の新参異名とされているので，ここではその見解に従った．
				M. paucidens　オキナメクラ　→オキナホソヌタウナギ	
			Eptatretus　ヌタウナギ属	*E atami*　クロメクラウナギ　→クロヌタウナギ	
Chondrichthyes　軟骨魚綱	Carcharhiniformes　メジロザメ目	Pseudotriakidae　オシザメ科 →チヒロザメ科	*Pseudotriakis*　オシザメ属 →チヒロザメ属	*P. microdon*　オシザメ　→チヒロザメ	深海性のサメであることから，深い海を表すチヒロ（千尋）を採用．
Osteichthyes　硬骨魚綱	Anguilliformes　ウナギ目	Synaphobranchidae　ホラアナゴ科 Ilyophinae メクラアナゴ亜科 →リュウキュウホラアナゴ亜科	*Dysomma*　メクラアナゴ属 →アサバホラアナゴ属	*D. anguillare*　メクラアナゴ　→アサバホラアナゴ	亜科和名は本亜科に*Ilyophis*リュウキュウホラアナゴ属を含むことによる．種和名はホラアナゴ科魚類としては，比較的生息深度が浅いことによる．
		Cyematidae　セムシウナギ科 →ヤバネウナギ科	*Cyema*　ヤバネウナギ属	*C. atrum*　ヤバネウナギ	日本産本科魚類はヤバネウナギ1種のみであることから，科名についてもこの名称を採用．
	Clupeiformes　ニシン目	Clupeidae　ニシン科	*Spratelloides*　キビナゴ属	*S. atrofasciatus*　バカジャコ　→リュウキュウキビナゴ	本種は日本では沖縄県のみに分布することから．
	Myctophiformes　ハダカイワシ目	Myctophidae　ハダカイワシ科	*Nannobrachium*　トンガリハダカ属	*N.* sp.1　テナシハダカ　→ヒレナシトンガリハダカ	胸びれがないことから．
	Ophidiiformes　アシロ目	Bythitidae　フサイタチウオ科	*Oligopus*　セムシイタチウオ属 →セダカイタチウオ属	*O. robustus*　セムシイタチウオ　→セダカイタチウオ	他属に比較して体高が高いことから．
	Lophiiformes　アンコウ目 Antennarioidei　イザリウオ亜目 →カエルアンコウ亜目	Antennariidae　イザリウオ科 →カエルアンコウ科	*Antennatus*　イザリウオモドキ属 →カエルアンコウモドキ属	*A. tuberosus*　イザリウオモドキ　→カエルアンコウモドキ	本亜目魚類の形態がカエルを連想させ，また英名がfrogfishであることから本科の基幹名としてカエルアンコウを採用．「ヒメヒラタイザリウオ」は瀬能・川本（2002）で提唱された．なお，改名案にはイザリウオ（漁る魚の意）も検討されたが，旧名を連想させない名称が適切であるとの意見を重視した．
				A. flagellatus　ムチイザリウオ　→ムチカエルアンコウ	
			Antennarius　イザリウオ属 →カエルアンコウ属	*A. analis*　ロケットイザリウオ　→ロケットカエルアンコウ	
				A. striatus　イザリウオ　→カエルアンコウ	
				A. hispidus　ボンボリイザリウオ　→ボンボリカエルアンコウ	
				A. scriptissimus　ソウシイザリウオ　→ソウシカエルアンコウ	
				A. commersoni　オオモンイザリウオ　→オオモンカエルアンコウ	
				A. maculatus　クマドリイザリウオ　→クマドリカエルアンコウ	
				A. pictus　イロイザリウオ　→イロカエルアンコウ	
				A. coccineus　ウルマイザリウオ　→ウルマカエルアンコウ	
				A. rosaceus　エナガイザリウオ　→エナガカエルアンコウ	
				A. nummifer　ベニイザリウオ　→ベニカエルアンコウ	
				A. dorehensis　カスリイザリウオ　→カスリカエルアンコウ	
				A. randalli　ヒメヒラタイザリウオ　→ヒメヒラタカエルアンコウ	
	Lophiiformes　アンコウ目 Ceratioidei　チョウチンアンコウ亜目	Melanocetidae　クロアンコウ科	*Melanocetus*　クロアンコウ属	*M. murrayi*　セムシクロアンコウ　→クロアンコウ	日本産本属魚類は本種のみであることから，属の既存和名を採用．
	Scorpaeniformes　カサゴ目	Scorpaenidae　フサカサゴ科	*Scorpaenopsis*　オニカサゴ属	*S. diabolus*　セムシカサゴ　→ニライカサゴ	本村ほか（2004）で改名済み．
		Triglidae　ホウボウ科	*Chelidonichthys*　ホウボウ属	*C. ischyrus*　セッパリホウボウ　→ツマリホウボウ	近縁種に比較して前後に短縮した体形をしていることから．
		Psychrolutidae　ウラナイカジカ科	*Malacocottus*　セッパリカジカ属 →コブシカジカ属	*M. gibber*　セッパリカジカ　→ヤマトコブシカジカ	日本産本属2種のうちの他種 *M. zonurus* コブシカジカの名称を属名に採用．種和名は日本海に固有であることから．
	Perciformes　スズキ目	Gerreidae　クロサギ科	*Gerres*　クロサギ属	*G. erythrourus*　セッパリサギ　→セダカクロサギ	同属他種に比較して体高が高いことから．
		Zoarcidae　ゲンゲ科	*Bilabria*　ミツクチゲンゲ属 →ウサゲンゲ属	*B. ornata*　ミツクチゲンゲ　→ウサゲンゲ	ウサは兎の意．顔つきの印象から．
			Lycodapus　アシナシゲンゲ属 →ヤワラゲンゲ属	*L. microchir*　アシナシゲンゲ　→ヤワラゲンゲ	体が寒天質で柔らかいことから．
			Andriashevia　テナシゲンゲ属 →チョウジャゲンゲ属	*A. aptera*　テナシゲンゲ　→チョウジャゲンゲ	チョウジャは長者の意．属の学名の由来であるロシアの碩学アンドリアシェフに対する褒詞．
	Pleuronectiformes　カレイ目	Bothidae　ダルマガレイ科	*Neolaeops*　セムシダルマガレイ属 →オオクチヤリガレイ属	*N. microphthalmus*　セムシダルマガレイ　→オオクチヤリガレイ	近縁属の *Laeops* ヤリガレイ属や *Japonolaeops* ヒナダルマガレイ属に比べて口が大きいことから．
	Tetraodontiformes　フグ目	Monacanthidae　カワハギ科	*Rudarius*　アミメハギ属	*R. excelsus*　セッパリハギ　→セダカカワハギ	同属他種に比較して体高が高いことから；本種は答申時に採録漏れしていたもの．

引用文献：

Fernholm, B.　1998.　Hagfish systematics.　Pages 33-44 in J. M. Jørgensen, J. P. Lomholt, R. E. Weber and H. Malte eds. The biology of hagfishes. Chapman & Hall, London.

本村浩之・吉野哲夫・高村直人．2004．日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類（Scorpaenidae: *Scorpaenopsis*）の分類学的検討．魚類学雑誌，51: 89-115.

中坊徹次編．2000．日本産魚類検索：全種の同定，第2版．東海大学出版会，東京．lvi+1748 pp.

瀬能　宏・川本剛志．2002．日本から初記録のヒメヒラタイザリウオ(新称)．I.O.P.Diving News，13: 2-6.